あまにゅう

青森県青年海外協力協会（AOCA）広報誌
平成24年3月号（2012.3）
発行:　青森県青年海外協力協会
編集担当: 大賀重樹（5－1ホンジュラス）

ウインターキャンプ in 青森 for ふくしま kids
たくさんのご支援をありがとうございました

青年海外協力協会広報誌「あまにゅう」は、主に青森県出身の青年海外協力隊の参加経験者からなる団体の広報誌です。この広報誌を発行することを通して、県内在住のＯＢ・ＯＧの情報交換をするほか、私たちの活動に興味のある方々に私たちの活動への理解を求めるとともに、国際協力・国際理解の輪を広げることを目的として発行します。

「あまにゅう」の由来

「あまにゅう」は八甲田をはじめとした高山にあり、きれいな白い花をさかせる植物です。普段は人知れず咲いているのですが、一旦山に登ると大きくてはっきりと確認できる植物です。青森に住み世界のことを考えながら決して途上国への情熱を忘れない、そんな協力隊経験者と通じるところがあるようで、機関誌を作ったときに採用されました。なお、名付け親は川村宏義氏「あまにゅう」の初代編集者です。

帰国した隊員にできることは、何か

会長　村木裕俊（Ｈ１９－２ シリア　果樹栽培）

2012 年。今冬の青森は記録的な大雪で雪かきの毎日でした。降りやまない雪に『春』を待ち遠しく感じたものです。さて『春』といえば中東の大政変『アラブの春』。私の任国であるシリアも昨年の 3 月にいわゆる『民主化運動』が始まり、未だ収束の兆しは見えていません。長期化に伴いその情勢も複雑化し、『独裁者 vs 抑圧された国民』という対立構図ではもはや理解し難いものとなってきました。

しかし日本でのシリア政変に関する一連の報道を見ていますと、やや偏向しているところがあるように見受けられます。報道の信憑性に関しては判断つきかねますが、少なくともシリア、ひいてはアラブ、イスラムのイメージダウンを招いてしまっているように思います。

任国が大変な時に結局は何もできないという無力さを感じつつも私たちにできることは何か。それは愛すべきシリアの素晴らしさを少しでも多くの人に知ってもらうこと。これは私たち青年海外協力隊員にしかできないことであり使命だと私は思っています。限られた情報からは偏った判断、イメージしか生まれません。しかし私たちは二年間任国で生活し、任国のいいところ悪いところを肌で感じてきました。同じように感じているシリア隊員仲間も多く、皆ブログや講演など様々な形でその思いを発信しているようです。

今回の出来事を通して青年海外協力隊で身についたこと、私たちができること、すべきことを改めて考えさせられています。

青森公立大学国際交流 講演会
～未来を担う皆さんへ～
青年海外協力隊活動体験者からのメッセージ

日時：3 月20 日（火） 13：00～15：00
会場：青森市　アウガ 5 階AV多機能ホール
入場：無料
挨拶：青森公立大学学長 佐々木 恒 男

【第1部】 JICA 青年海外協力隊OB 講演

①村木裕俊OB　（シリア　果樹栽培）
　テーマ：「繋がる点と点」
②髙橋和徳OB（ウガンダ　村落開発普及員）
　テーマ：「夢・目標に向かうための細かなPlan と大きなStep!!!」

【第2部】 国際交流ディスカッション

『世界を通じて自分を磨くためには』
パネリスト
①　JICA 青年海外協力隊OB　村木 裕俊OB
②　JICA 青年海外協力隊OB　髙橋 和徳OB
③　青森公立大学教授　藤永 弘 氏
コーディネーター
　青森公立大学教授　遠藤 哲哉 氏

【同時開催】 青年海外協力隊活動写真展

お問い合わせ先 青森公立大学 事務局 教務学事グループ
＜電話：017-764-1555 FAX：017-764-1544＞

心が一つになって実現したウインターキャンプ　ドキュメント報告

次から次へと支援の輪が広がる、このことを実感したキャンプでした

行くボランティアから招くボランティアに

実行委員長　大賀　重樹　（H5-1　ホンジュラス　小学校教諭）

【9 月】プロジェクト始動　→　【11 月】募集開始

県内に在住する OBOG は、震災以降、様々な形でボランティアをしてきましたが、避難生活をおくる子どもたちに何かできないか福島県 OB 会と相談しながら準備を進めプロジェクトを始動させました。對馬均 OB（H6-3　コートジボワール　養鶏）が事務局長となり、ともに募集要項を作成する傍ら、青森市内各企業を訪問し寄付をお願いしました。宿泊施設探しやスキースクール訪問、スキーウエア提供の呼びかけ等々、やるべき事は山積していましたが、多くの方々の支援をいただき準備は着々と進んでいきました。また、青森県・福島県在住の OBOG に呼びかけ、スタッフも確保。11 月末から募集を開始し、会津若松周辺に避難生活する小学生 34 名が集まりました。

【12 月２４日】事前説明会　　会津若松市内

説明会前日、青森から高橋和徳 OB（H21-2　ウガンダ　村落開発普及員）と会津若松に向かい、翌 24 日には、福島県スタッフと共に、参加する子どもたちと保護者の方々に事前説明会を実施。主旨説明に始まり、全額無料であることや日程や持ち物の説明等のほか、子どもたちの交流会も行いました。また、一人一人に青森市民の方々からの提供して頂いたスキーウエア試着後、持ち帰ってもらいました。

キャンプの主旨を説明する福島県の小熊会長

受付→名札作り→スキーグローブのサイズ合わせの様子

【1 月4 日】キャンプ 1 日目

会津若松→福島こむこむ【プラネタリウム体験】→飯坂温泉

集合予定の 12:30 の 10 分前に、福島県立博物館に全員が集合し、予定を早めて出発。最初はぎこちない雰囲気でしたが、徐々に打ち解け、夕食後の山脇いづみ OG（H21-1　養護　ソロモン諸島）による交流会では、お互い自己紹介や他己紹介をして、盛り上がりました。

バスに乗り込む前に、出発式をして、お家の方へのあいさつもすませました。

合わせて１０の学校から34名の参加があり、初めての夜に興奮気味でした。

【1 月5 日】キャンプ2 日目

飯坂温泉→福島→新青森→モヤヒルズ→青森県青年館

予定通り、11:09 に青森に到着。バスに乗り換えて、いざモヤヒルズへ。雪の多さに驚きながらも大喜びでした。

バナナボート・スキーに四苦八苦も大興奮！！

我々にできる支援を考える機会になったワークショップ

佐々木　理江（H２０－３　セネガル　村落開発普及員）

2012 年 2 月 4・5 日に仙台市で開催された「地球生活体験学習ワークショップ in 東北ブロック」に参加しました。

【プログラム】は、三部構成になっていました。

●第一部　地球生活体験ワークショップ　　●第二部　参加者交流会　　●第三部　震災復興の取組みと意見交換

宮城県 OV 会の方が中心となって、地域コーディネーターとしてのスキルアップとして異文化コミュニケーションプログラムや『ジョハリの窓』カードゲームなど、工夫を凝らしたワークショップを体験することができました。伝える側の一人として、ひとつの表現にも様々な表現（単語の使用など）をすること、時間内でいかに分かりやすく説明するかなど、「発表するとき」「ワークショップを行うとき」「ファシリテーターになったとき」に人に伝えるためのポイントを学びました。交流会では主催者の楽しい演出で、東北 6 県から集まった多くの参加者と話せる機会になり、楽しい時間を過ごすことができました。

中でも印象に残ったのは震災と震災復興に関する取組みに関するプログラムです。JICA を始め、JOCA や東北ブロックの支援事例などを紹介いただき、震災被害中心地での多方面からの活動を改めて知ることができました。震災時、私は任国に赴任中のため震災を経験していません。東日本大震災当初の話はよく耳にするものの、震災が身近に起こった方とは感じ方や考え方が異なるように想っていました。今回のワークショップには同じように震災を経験していない隊員が多く、赴任中や帰国後にどの様な活動をされてきたかなどの意見交換をすることができました。いち早く支援活動を始めた OV の方々からは学ぶことが多く、今後震災について自分たちには何がしていけるのかを考える貴重な機会になりました。

【1 月6 日】キャンプ3 日目

青森県青年館→モヤヒルズ→青森県青年館

朝から快晴となり、丸一日スキー三昧でした。34 名が 7 つの班に分かれてコーチにみっちり教わり、午後には、中級コースを颯爽とすべる姿も見られました。夜には、大賀佳子 OG（H5-1　ホンジュラス　保健師）による「感謝の花束」の交流で、互いにメッセージを色紙に書き合いました。

学生スタッフも大活躍でした

【1 月7 日】キャンプ4 日目

青森県青年館→市内観光（三内丸山遺跡、ワ・ラッセ、のっけ丼体験）→新青森→会津若松

最終日も快晴。縄文遺跡の三内丸山を訪れて雪原を歩きました。青森の火祭り「ねぶた祭り」を体験できる観光施設「ワ・ラッセ」では、ボランティアガイドの方に案内してもらいながら施設を満喫し、いよいよ、「のっけ丼体験」。お気に入りのねたをご飯の上にのっけて、思い切り食べました。その後、新青森駅で、両手いっぱいにお土産を買い、いざ会津若松へ。18:03 に到着。お家の方が出迎えてくれました。

全員元気に会津若松に到着。

【1 月1 4 日】事後報告会　　会津若松市内

保護者の方々に、キャンプの概要を映像や写真を交えて報告しました。久しぶりの再会に大賑わいでした。帰りには、連絡先を交換したり、写真を取り合ったりする姿もありました。DVD は、越善啓 OB（H18-1　カンボジア　PC インストラクター）が担当しました。

「キャンプを終えて」

高橋和徳・越善　啓

短い期間でしたが青森を楽しそうに、また元気に満喫する子どもたちからスタッフもエネルギーをいただきました。今回のキャンプは青森県内外のみならず国外からの寄付・支援などにより実行することができました。この皆様方の支援を通じて運営スタッフも人との「繋がり」や「絆」の大切さを身にしみて感じることができました。本当に実り多いイベントになりました。寄付・支援を頂いた皆様に感謝の意を表したいと思います。本当にありがとうございました。

子どもたちの感想から

「スキーやいろいろなことをして楽しかったです。また、やりたいです。4 日間ありがとうございました。青森にまた、このみんなで行きたいです。」

「友達も作れたし、スキーもできてうれしかったです。このウインターキャンプは、すごく思い出になりました。子のことを家族に自まんしたいです。友達とお別れするのは悲しいけど、また会ったら遊びたいです。」

「スキーはやったことがなくて不安だったけど、できるようになってうれしかったです。青森の人達はやさしくしてくれて、とても楽しい気持ちになりました。また、機会があれば遊びに来たいです。」

「温かい滞在企画青森の人に感謝」

小学校 4 年の娘が参加しました。主催した青森県青年海外協力協会のスタッフを始め皆さまのご支援で、貴重な体験と心に残る思い出ができました。スキー用の汗取りタオルまで手作りで準備して頂き、本当にありがとうございました。

娘はスキー場に行ったことさえありませんでしたが、キャンプ中のスキー教室で丁寧に教えて頂き、何とか滑れるようになって帰ってきました。3 学期から体育の授業でスキーが行われていますが、不安もなくなり楽しくやっているようです。

一日も早く平穏な生活にもどりいつの日か、家族で青森を訪れたいと思っております。福島の子どもたちを温かく迎え入れて頂き本当にありがとうございました。〈東奥日報　明鏡欄に寄せられた文を抜粋〉

震災後の JICA、JOCA、OB たちの活動を知ることができた

沢目　文雄（Ｈ１８－２　ガーナ　自動車整備）

佐々木さんに続き、私からは主に第一部と第三部について報告したいと思います。第一部の「大きな地震の後の避難所で、必要な物を 10 個だけ選ぶ」という設定のワークショップでは、人間が生きていく為に必要な物、赤ちゃんや高齢者、障害者など各々に必要な物があることに気付いたり、他者と創意工夫をして問題解決方法を考えたりすることが出来ました。「バルンバ人の文化を知ろう」というゲームでは、私たちは相手から色々質問をして相手のことを知ろうとしますが、相手の仕草や行動をよく観察することによって、たとえ言葉が通じない相手でももっと多くの情報を得ることができ、異文化や異文化人を理解しコミュニケーションをとることが出来るのだと思いました。

「ジョハリの窓」ゲームでは、他の参加者もそうでしたが、意外と自分が思っている自分と、他人から思われている自分では随分違うことに気付きました。例えば、自分は口下手で聞き上手と思っていても、他人からは話上手と思われていたりするなど、時には真剣に考えたり時にはお腹を抱えて大笑いしたり、その他盛りだくさんの内容の第一部でした。

また、第三部では今までなかなか知る機会がありませんでしたが、震災後の JICA や JOCA 等の活動を聞くことが出来、被災地でも海外と同じように地域に根付いた活動をしていることが分かりました。今回このような機会を与えて頂き、大変ありがとうございました。

これからも我々にできることを自分たちで探しながら、実践していきます。

東北六県から OBOG が集まり、真剣に和やかに話し合いました。協力隊を経験したからできることもあるはずです。

長者中から届いた素敵な贈り物

AOCAの皆様 ご無沙汰しております。平成22年度1次隊フィリピン派遣、村落開発普及員の松田朋恵です。本日はご報告があり、メールさせていただきました。去る1月25日、八戸市立長者中学校から届いていた文房具の寄付と手紙を届けに、フィリピン東ネグロス州にあるパリンピノン小学校と近くの孤児院に行ってまいりました。

ここ東ネグロス州は、昨年12月の台風により、ミンダナオ島と共にかなりの被害者が出ていて（日本でもニュースになったと聞いています）、例えば今回訪問したパリンピノン小学校だけでも2人の生徒さんが亡くなっています。長者中学校の3学年の生徒さんたちが集めてくれた文房具と、それぞれの生徒さんが書いてくれた手紙は、こちらの人たちもかなり喜んでくれ、早速手紙の返事を書いてくれました。日本に友だちができたと皆（先生方も含めて）喜んでいました。

今回、こうしてフィリピンと私の地元を繋ぐお手伝いができたこと、とても幸運に思います。少しだけですが写真も添付いたしますのでよかったらご覧になってください。それでは、今年は特に雪が多い年と聞いていますが、お体どうぞご自愛くださいませ。フィリピンは、年が明けてからは日に日に暑さを増すばかりです。（松田朋恵）

文房具を手に喜ぶ子どもたち

長者中からの文房具がフィリピンの子どもたちを元気づけました

アンデスからも贈り物のお知らせ

現在、エクアドルで活動中の平成22年度1次隊の河井かおりです。日頃から大変お世話になっているのに、なかなかお礼を言えずにいたところ先日、松田さんのメールを読み私もお礼と報告を！と満を持してメールさせていただきます少し長くなります。

まずは、元旦の新聞から昨年度に続き二度目の受け取りとなり、届く数ヶ月前から楽しみにしていました。花金、仕事の後ホッとした気分でコーヒーを飲みながら約3時間かけて見ました。八戸酒造の広告だったと思いますが、「うまさにまじめです」というフレーズにガッテン！日本から離れてみると、日本が何事にも「まじめ」であることを強く感じています。震災に関する記事も多く、胸がくっと締め付けられる思いをしながら読みました。地球の裏側で故郷の匂いを感じられたこと皆様に感謝しております。ありがとうございました。

松田さんのご報告に続き、というか時間的には前の出来事になりますが私も、籍を置いている「むつ市第二田名部小学校」の卒業生からピアニカを数台寄付していただきました。こちらは、既存のプロジェクトを利用してではなく、全く個人的なやり取りで叶ったものでした。その様子は、毎月、むつの小学校に送っている「エクアドル通信」で紹介しました。ピアニカを寄付してくれた卒業生呼びかけに協力してくださった先生方、青森からエクアドルまで運んでくださった日本団の皆さま、多くの方々の思いやりで叶った笑顔でした。

私の活動も間もなく任期満了を迎え、帰国となります。やり残したことがないかと聞かれれば、正直「ある」と答えてしまう今ですがそう言った悔しさも、これからの「私の生き方」につなげていければと思っています青森に戻った際には、また皆様に報告いたします。それでは、1年7カ月たってもノミ被害が絶えないアンデスから河井かおりでした

「JICAボランティア同窓会 in 二本松」を開催

たくさんの協力隊員OBOGが参加して、福島を元気にしましょう。

3月24日（土）15：00開会

【講演】 「震災後の福島県の現状とこれから」

【震災後の福島県内の状況報告】

農業分野・教育分野・医療分野

3月25日（日）9：00開始

1，被災地応援ツアー「被災地視察」（～16:30）

2，被災地応援ツアー「福島県会津地方観光」（～16:30）

3，震災支援報告会を通じたネットワークづくり（～11:30）

◇JICA（国際協力機構）の取り組み

◇JOCAの取り組み一復興支援、そして地域活性化へ一」

◇福島の笑顔をつなぐボランティアグループ「ひらそる」

◇青森県青年海外協力協会

◇沖縄県青年海外協力協会

【問い合わせ先】 青年海外協力協会 特別業務室 石井

E-mail ： v-dosokai@ioca.or.jp TEL ： 03-3406-9036

今年も「東奥日報 元旦号」を世界へ発送

1月7日（土）、青森県出身で青年海外協力隊員として活動中のみんなへ発送しました。乗田OBが中心となり、水産ビルで発送作業をしました。新聞は今年も東奥日報社からの無償提供で本当にありがたいです。一部ずつひもでしっかり結び、航空便で送りました。外国で見る日本語の新聞の活字がうれしく、折り込み広告も大人気です。

今月以降の主な予定と情報

3月20日（火） 青森公立大学国際交流 講演会 ～未来を担う皆さんへ～ 青年海外協力隊活動体験者からのメッセージ
（青森市 アウガ 5 階AV多機能ホール 13：00～15：00 村木会長・高橋OBによる講演）

3月24・25日（土・日） JICAボランティア同窓会nin二本松（福島県二本松市 二本松訓練所 15:00開会）

4月 21日（土） JICAボランティア春募集説明会（青森市水産ビル 14：00～16：00）

5月 下旬 JOCA評議員会（国立オリンピックセンター 村木会長・大賀OB出席予定）